

熱い夏

園長 志賀 教子

8月は、たくさんの研修、学びの機会がありました。8月1日から2日間は東京で社会教育全国研究集会に参加。翌3日は世田谷の上町しぜんの国保育園の視察見学（0～5歳児の異年齢保育をしている園です）。出かけるだけでなく、和歌山大学の社会教育主事講習の受講者9名（社会人のプログラムでしたので学校の先生や行政職員、子育て支援のNPOの方など受講生も個性豊か）の方々がアトムを見学しアトムの家庭支援のお話をさせていただいたり、町内小学校との架け橋プログラムの一貫としての公開保育が（南小学校・西小学校の校長先生・教育委員会の方3名がアトムの保育を見学してくださり、保育士と意見交換）あったりと、アトムに来ていただいた外の方々と学び合う機会も続き、たくさん刺激を受け考える夏になりました。

そして8月の最後、22日（土）～23日（月）の3日間は、全国保育団体合同研究集会にアトムつばさの仲間たちと参加してきました。通称『合研』とよばれるこの集会は、今年で第58回、なんと半世紀を超える歴史があり、毎年、全国から3000人を超える参加者（保育士・保護者・研究者・学生など）が集います。今年は兵庫開催、大阪から近いこともありアトム、つばさからも総勢26名の職員で参加することができ、また4つの分科会でアトムとつばさの職員が4本の実践発表をする機会もいただきました。（詳しくは、合研特集ページで）

1日目の全体集会を終え、2日目は分科会に分かれます。私は昨年度主任として5歳児の保育士（川崎保育士・前川保育士）とともに関わってきた5歳児の保育の分科会に参加することにしました。会場全体の人数は、30名弱でした。アトム5歳児の発表は、クラス担任として失敗を恐れる子どもたちの姿に問題意識を持ち、失敗を怖がらず失敗をしながら育っていく経験をと保育の目標に掲げたのに、結局は担任である自分たち自身が「失敗を恐れて」いたのではないかという自分への向き合いが、正直な言葉で語られました。ひとりの保護者から円周を走る園の運動会のリレーが危ないという意見が出たことを発端に他の保護者も巻き込んでクラスが大きく混乱。保護者の強い意見に対してひるんで、的確な説明もできず、思いも言えず、懇談会を混乱の渦に巻き込んでしまったこと、しかし、仲間にも保護者にも支えられながら泣きながらも「対話」し続けようとしたその奮闘が、赤裸々に語られた発表でした。

発表を聞いた後のグループ討議では、会場の参加者からあまりに正直なアトムの発表にも、保護者と保育士の距離に近さに圧巻だと驚きの声がたくさん出たのですが、私は、他園では親との懇談会は年間1回か2回、年間6回以上（5歳児では10回になることも）の懇談数に参加者全員がすごく驚いていることに、反対に驚きました。日々の中で保育士と保護者が子どもを真ん中に話をしていることや、懇談会で時には本気でぶつかりあいながら話し合っていることすべてが、決してあたりまえではなく、とても大事なことなんだと改めて思われたのです。

帰り際に若い奈良の保育士さんが数人で私のところにやってきて、どうすれば保護者と対話できますか？個人懇談はしてますか？2ヶ月に1回クラス懇談会して、みんなきますか？などの質問もされました。私たちの園でも、ぜひ懇談会をやっていきたい。子どもたちの姿をもっと伝えたいと今日アトムのお話を聞いて思ったんですと、熱意ある眼差しに胸が熱くなりました。

感じることの多かった分科会でしたが、何より、発表者の川崎と前川が堂々と語る姿にこみ上げる思いがありました。悩み続けた昨年度の1年間、この発表も自分たちで手を挙げたものではありません。でも、何が足りなかったのかを客観的に振り返ることや、知らない人たちに話すために自分たちの葛藤を言葉にすることでつかむことがあるはず、そういう思いで発表を後押しし、エールを送り続けた自分でした。発表してよかったと清々しい表情で戻ってきたふたりに、私も嗚咽しそうなぐらい泣けた『熱い夏』でした。